はじめに

滋賀県平和祈念館は、平成 24 年(2012 年)3 月、「語りつぐ　平和へのねがい」を指針として開館し、その後順調に活動をひろげ、以来 8 年を経過しました。この間の本館の活動については、『滋賀県平和祈念館　年報』第 1 号を平成 25 年(2013 年)12 月に刊行し、その後は各年度の活動について、それぞれ『年報』にまとめ、報告してきたところです。

本号では令和元年度の活動報告をまとめていますが、この年度においては周知のように、相次ぐ台風の襲来や新型ウィルス性肺炎の流行により、しばしば催しの中止や臨時休館の措置をとらざるをえず、県民の皆さまにはたびかさなるご心配とご期待にそえなかったこと、この場をかりておわび申しあげます。

さて、当館の運営にあたっては「モノと記憶の継承」、「自らできることのきっかけづくり」、「県民参加型の運営」という三つの基本方針のもとで、県民のさまざまな戦争体験を語りつぐ事業として、資料収集保存をはじめ、展示、普及啓発、平和学習支援、ボランティア活動支援などの諸事業を展開しています。

まず令和元年度の展示事業としては、第 23 回企画展『沖縄戦 1945 年』、第 24 回『「写真週報」に見る戦時下の女性』、第 25 回『守山空襲』を開催しました。

第 23 回展では滋賀県出身兵士が沖縄戦でたどった経過を紹介し、関連して福島栄寿大谷大学教授、上杉和央京都府大准教授による、沖縄における慰霊碑の意味やその伝承をめぐる講演会を開催し、多くの方々から高い関心を寄せられましたが、8 月 15 日の戦没者追悼と関連の催しは台風のため中止となりました。

第 24 回展では、戦争と女性というテーマに関連して、生田美智子大阪大学名誉教授による講演会『女たちのシベリア抑留』を開催しました。つづいて令和 2 年(2020 年)1 月から第 25 回展を開幕しましたが、先述のように 3 月以降は臨時休館となりました。

令和元年度の普及啓発事業では、すっかり本館の行事として定着した『戦争体験を聞く会』も 2 度にわたって中止せざるをえなくなり、『映画上映会』も 2 月以降は中止となりました。しかし開館以来実施しております、戦争体験聞き取り調査や資料の収集などは例年どおりすすめており、戦争体験者の映像記録化の事業も着実にすすめ、常時公開できる体制をととのえています。

一方、子供向けの事業として『へいわの学校あかり』の通年開催、そして平和を願う子どもピースメッセージ絵画コンクールも実施してきました。

また本館ではボランティア活動もさかんで、現在の登録メンバーは 53 名で、9 つのグループ活動があり、本館のさまざまな事業で協働がすすんでいます。しかし 3 月に予定していた、この一年の総括を県民の皆さまとともに検証する周年行事も、残念ながら臨時休館とともに中止せざるをえなくなりました。新年度を迎え再開のあかつきには、職員一同、これまで以上に皆さまに愛される祈念館運営を心がける所存です。

どうかこれからも祈念館にご理解とご協力をいただきますようお願いいたします。

令和 2 年(2020 年)4 月　　滋賀県平和祈念館館長　　端　　信行

目　　次

はじめに ……1

Ⅰ　事業概要
　1　展示事業
　　(1) 基本展示の改定……3
　　(2) 企画展示……5
　　(3) 企画展示関連事業……17
　　(4) 特別企画展示……18
　　(5) 地域交流展示……19
　　(6) 収蔵展示……21
　　(7) その他の展示……22
　2　資料収集保存事業
　　(1) 戦争体験聞き取り調査……23
　　(2) 収蔵資料の整理･保存……24
　3　普及啓発事業
　　(1) 平和学習講座……25
　　(2) 大人のための歴史教室……25
　　(3) 戦争体験を聞く会……26
　　(4) 戦争遺跡見学フィールドワーク……27
　　(5) 平和を祈念する日事業……27
　　(6) 開館８周年記念事業……28
　　(7) 館長講座「平和塾・つなぎ人（びと）」……28
　　(8) 映画上映会……28
　　(9) 平和の学校あかり……29
　　(10) 平和を願う子どもピースメッセージ絵画コンクール……33
　4　平和学習支援事業
　　(1) 来館学習の支援……35
　　(2) へいわの子事業……35
　　(3) 出前授業……36
　　(4) 地域への出前講座……36
　　(5) 資料貸出……37
　　(6) 戦争体験者証言映像の制作……38
　5　ボランティア活動支援事業……39

Ⅱ　資料
　1　利用状況……42
　2　広報活動……46
　3　組織……49
　4　決算……50
　5　施設概要……51
　6　利用案内……52
　7　関係規程……53

Ⅰ　事業概要

１　展示事業

（１）基本展示の改定

当館では、常設展示として身近な地域での戦争とのかかわりを知るための［基本展示］、収集資料や体験証言をもとに県民の戦争体験を様々な視点から紹介する［企画展示］、収集資料をテーマごとに展示する［収蔵展示］、正面エントランスでの［特別企画展示］、地域交流室での［地域交流展示］などを開催してきた。これまでの基本展示では、スペースなどの制約もあって戦争全般を紹介するコーナーが小さく、地域と戦争のかかわりの紹介が不十分であった。そのため、滋賀県平和祈念館では平成 29 年度に策定した滋賀県平和祈念館第 2 期計画に基づいて、平成 31 年度に基本展示の増補・改定を実施した。新規基本展示は令和 2 年(2020 年)4 月 1 日より公開している。

新規基本展示の概要

１）「地域展示」

「地域展示」では、相互に関連する 3 つの展示（壁展示・柱展示・床面（滋賀県航空写真）展示）によって、当時の滋賀県内の状況を俯瞰できるものとした。

壁展示では当時の風景・人々の暮らしを写した写真を背景にして、県内 19 市町ごとに当時の人口や 15 年間の戦没者数、軍事施設、主な軍需工場、空襲被害、集団学童疎開受入れのデータを紹介した。

柱展示では、軍事施設や主な軍需工場、空襲被害、集団学童疎開のテーマに分け、壁展示で紹介した内容を詳しい説明や当時の出来事で紹介している。

床面（滋賀県航空写真）展示では、柱展示で紹介した施設の場所をテーマごとに色分けした番号シールで示し、身近な地域にも戦争に関係する多くの施設があったことを知るきっかけとなる展示とした。

「地域展示」　壁展示と床面展示

「地域展示」柱展示

２）「滋賀県と戦争」

収蔵資料と滋賀県民の戦争体験談を中心に据えて、戦争全般を紹介する「滋賀県と戦争」を約 2 倍のスペースに拡充した。コーナーでは、戦争と戦地での戦争体験をテーマとし

た【15 年にわたる戦争】と、戦争中の滋賀県民の暮らしをテーマとした【戦時下の滋賀県】の 2 部構成とした。

【15 年にわたる戦争】

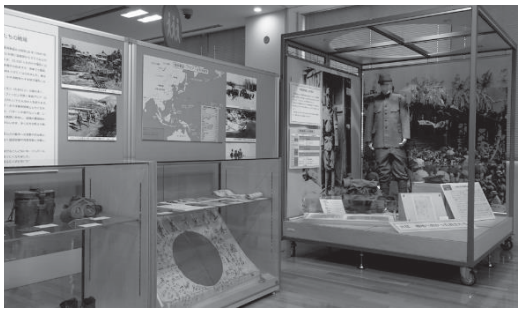
「徴兵検査・出征」、「滋賀県出身者たちの戦場」、「戦場からの手紙」、「戦死　無言の帰郷」といった小テーマに分けて、関係資料や体験者の証言を紹介した。

【戦時下の滋賀県】

戦争によって滋賀県で起こった様々な出来事や県民が強いられた事象を、「金属供出」、「学徒動員・女子勤労挺身隊」、「銃後の生活」、「戦時下の婦人会活動」、「空襲」、「戦時下の学校と子どもたち」、「集団学童疎開」、「終戦　戦後」、「ふるさとへ　復員と引き揚げ」といった小テーマを設け、体験証言や関係資料を紹介した。

最後に、現代の子どもたちの平和への願いを発信する「世界に届けよう！！子どもたちの願い。ピースメッセージ絵画」として、当館で毎年実施している「平和を願う子どもピースメッセージ絵画コンクール」の受賞作品を世界地図ボードで紹介した。

出征のぼり



滋賀県出身者の戦場

戦時下の滋賀県

滋賀県への空襲

戦時下の学校と子どもたち

子どもたちの平和への願い

（２）企画展示

第 23 回企画展示　『沖縄戦 1945 年－滋賀県出身の兵士がたどった道－』

会期　令和元年(2019 年)6 月 8 日（土）～9 月 23 日（月）

会場　当館企画展示スペース

趣旨　昭和 20 年(1945 年)3 月の沖縄県への米軍上陸に始まった地上戦は、激烈をきわめた戦闘であった。20 万人を超える沖縄戦戦没者のうち日本軍関係者の犠牲者は約 9 万 4 千人(うち約 2 万 8 千人が沖縄県出身者)、沖縄県住民の犠牲者も約 9 万 4 千人、米軍側が約 1 万 2 千人にのぼった。激しい戦闘の前半戦において最前線に立ったのが、京都で編成された第 62 師団（『石部隊』）であり、部隊には京都府・福井県・三重県とともに多くの滋賀県出身者が含まれていた。企画展示では、郷土部隊のゆくえとともに、戦場となった当時と現在の沖縄県のようすを紹介した。

第 23 回企画展示チラシ

展示の様子

概要

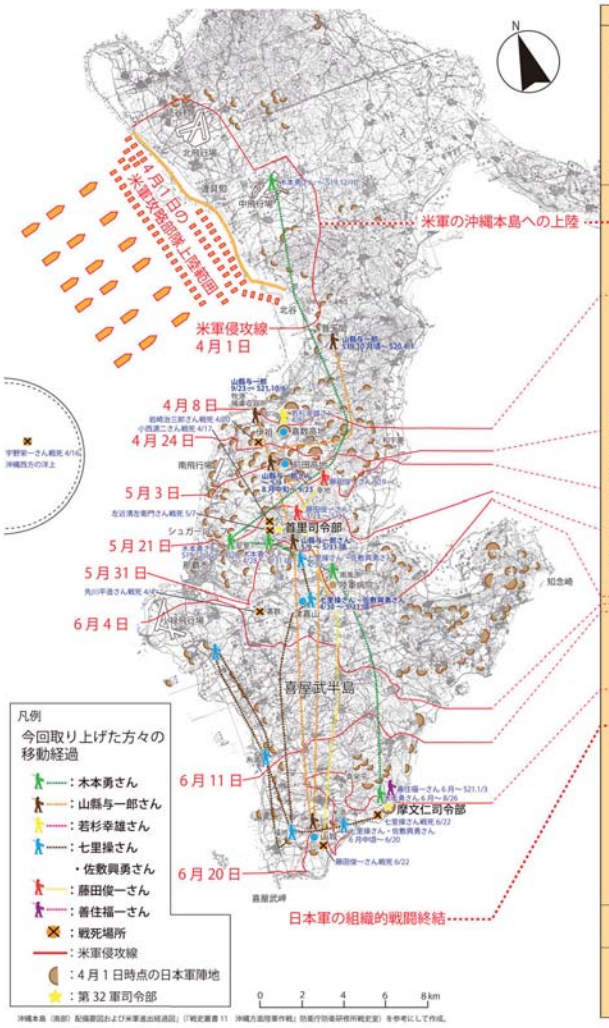
【プロローグ】

郷土部隊であった第 62 師団「石部隊」の沖縄への配置転換に伴って、多くの滋賀県出身兵士が沖縄戦に参加することとなった経緯と沖縄戦での日米両軍の戦力差を説明するとともに、戦争によって被害を受けた沖縄の人を沖縄戦を象徴するメインバナーの写真「白旗の少女」や沖縄戦に巻き込まれた住民の写真「戦時下の沖縄の人々」を対峙する形で配置した。

沖縄戦の経過

嘉数高地・前田高地の戦闘

沖縄戦経過図（今回取り上げた方々の戦争経過）



沖縄本島（南部）配備要図および米軍進出経過図」（『戦史叢書 11　沖縄方面陸軍作戦」防衛庁防衛研修所戦史室）を参考にして作成。

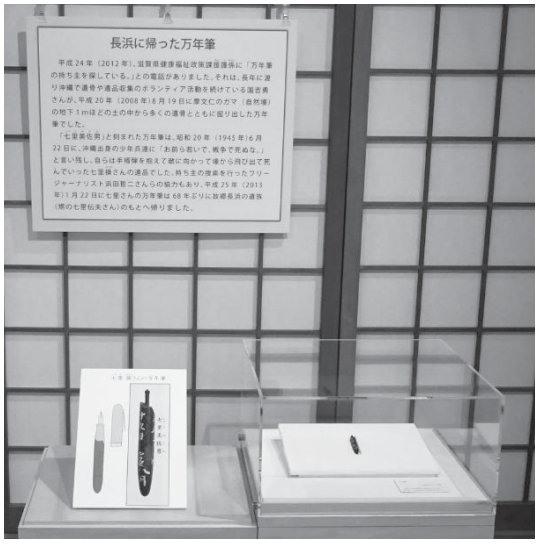
年	月	日	今回取り上げた方々の沖縄戦の経過
昭和十九年（1944年）	3月	22日	沖縄を守備する第32軍が編成される。（第62師団はその主力師団）
	8月	19日	第62師団(『石部隊』)が中国から沖縄へ移駐。
	8月～		沖縄各地に飛行場や防御陣地を構築。
	昭和20年		この頃、歩11大隊(石)の木本勇さんは中飛行場建設のために派遣される。
	3月	頃	工兵隊(石)の藤田俊一さんは幸地周辺の陣地を構築。
	10月	10日	米軍による沖縄への大規模な空襲、那覇市などに大きな被害。
			輜重隊（石）の山縣与一郎さん　普天間の陣地で空襲を受ける。
	11月	17日	第32軍所属の第9師団の台湾転用が決まる。
	12月	3日	第32軍が首里を司令部とする。
	12月	10日	木本勇さん　歩11大隊(石)から第32軍司令部副官部へ出向。
昭和二〇年（1945年）	2月		奥谷忠一さん（独立混成第44旅団）　沖縄で戦死。
	3月	26日	米軍が沖縄の慶良間諸島へ上陸。
	4月	1日	米軍が沖縄本島読谷・北谷海岸へ上陸。山縣与一郎さんが普天間陣地で米軍上陸を目撃。
	4月1～4日		歩12大隊（石）が米軍上陸部隊と交戦、南部への誘導を意図して撤退。
	4月	4日	先川平造さん　那覇市嘉数方面で戦死。
	4月	6日	吉田信太郎さん　沖縄への航空機による特攻で戦死。
			宇野栄一さん　沖縄への特攻で出撃、飛行機の故障により九州へ帰還。
	4月	8日	歩13大隊(石)など第62師団所属の各部隊が守る嘉数高地周辺の陣地(伊祖～嘉数～和宇羅)防衛線を米軍が攻撃。
	4月	9日	歩13大隊（石）所属の若杉（小島）幸雄さん　嘉数高地で迫撃砲弾により負傷。
	4月	16日	宇野栄一さん　知覧飛行場から沖縄へふたたび出撃し、沖縄西方洋上で戦死。
	4月	17日	小西源二さん　首里にて戦死。
	4月	19日	米軍が歩21大隊(石)の守る伊祖高地を占領。
	4月	20日	歩21大隊(石)・歩15大隊(石)が伊祖奪還を試みるが撃退され、多数の兵士が死傷。
			岩崎治三郎さん　伊祖で戦死。
	4月	21日	第62師団所属の各部隊が嘉数高地などから後方の陣地へ撤退。
	4月	23日	第24師団が幸地以東の前線に投入される。（第62師団の防衛範囲が前田高地以西となる。）
	4月	26日	前田高地を守る歩12大隊(石)が米軍と交戦し、5月9日に撤退。
	～5月	9日	山縣与一郎さんが前田高地で爆雷を背負い敵の戦車に体当たりする多数の兵士を目撃。
	4月	28日	木本勇さん　特別編成隊に配置され、首里司令部壕を警備。
	4月	30日	七里操さん　第62師団より64旅団(石)司令本部（津嘉山周辺）の通信分隊長として派遣される。
	5月	7日	左近清左衛門さん　首里方面で戦死。
	5月	12日	シュガーローフの戦い。18日に米軍が突破。
	～18日		
	5月	22日	第32軍が首里司令部を放棄し、喜屋武半島への撤退することを決定。
	5月	26日	第62師団司令部が喜屋武村山城へ向けて撤退を開始。師団の各部隊も5月31日までに撤退。
			木本勇さんの部隊は首里から摩文仁へ、輜重隊(石)の山縣与一郎さん・工兵隊(石)の藤田俊一さんは首里から山城へ向けて撤退。64旅団(石)の七里操さんらは津嘉山から福地へ向けて撤退。
	5月	31日	米軍が首里市街を占領。
	6月	11日	小禄にあった海軍の沖縄方面根拠地隊が壊滅。
	6月	中頃	64旅団(石)が福地から米須へ撤退。
	6月	下旬	第62師団の各部隊が糸満市南部の山城・真栄平・摩文仁などで壊滅。
			64旅団(石)司令部　米須付近の壕で米軍の攻撃を受けて壊滅。七里操さん・佐敷興勇さんは直前に第62師団への復帰命令を受け、文戦中の壕から摩文仁へ向けて移動。
	6月	19日～22日	藤田俊一さん　山城で米軍と交戦し、22日に戦死。
	6月	22日	七里操さんが摩文仁で戦死。第62師団藤岡師団長が自決。
	6月	23日	第32軍牛島司令長官・長参謀長の自決。沖縄での日本軍の組織的戦闘が終結。
			善住福一さん　牛島司令長官らの自決に立ち会う。佐敷興勇さんが戦線を離脱。
	6月下旬～8月上旬		木本勇さん　摩文仁付近の壕に潜伏。水くみ場で米兵にみつかり、攻撃を受けて負傷。
	8月	中頃	山縣与一郎さん　山城から前田高地の壕へ移動中の夜、アメリカ軍の戦闘を祝う花火のような曳光弾を見る。
	8月	15日	戦争終結の詔書が放送される。（玉音放送）終戦。福島弥三吉さんの沖縄特攻が中止となる。
	8月	中旬	山縣与一郎さん　前田高地の壕に潜伏。
	8月	26日	木本勇さん　壕内で兵士の自決に巻き込まれて負傷。投降し、捕虜収容所で治療を受ける。
	8月～9月下旬		山縣与一郎さんらが潜伏する前田高地の壕へ米兵が頻繁に降伏勧告に来る。
	9月	7日	沖縄の日本軍の降伏調印式が行われる。
	9月	23日	山縣与一郎さん　投降して牧港の捕虜収容所へ移送される。
	昭和21年		木本勇さん・山縣与一郎さん・木俣福一さん　沖縄から滋賀県の自宅へ帰る。
	昭和21年～昭和22年頃		岩崎三之利さん・左近とみさん・藤田清さんたちへ　出征した家族の沖縄での戦死を伝える知らせが届く。
	平成20年		沖縄県糸満市摩文仁の洞窟での遺骨収集中、七里操さんの万年筆が発見される。
	平成25年	1月22日	七里操さんの万年筆が死後68年を経て、ご遺族のもとへ帰る。

※第62師団所属部隊は（石）をつけて記載。
部隊名は歩兵第●●旅団を●●旅団、独立歩兵第○大隊を歩○大隊と略して記載。

沖縄戦経過図

沖縄方面への特攻

帰郷　家族のもとへ



長浜へ帰った万年筆

沖縄県の戦後

【沖縄戦の経過】

バナー「沖縄本島へ上陸する米軍」で圧倒的な米軍の戦力を視覚的に示すとともに、戦争の経過について写真・図面を交えて解説した。

【沖縄へ従軍した滋賀県出身者】

戦況地図や年表を使って滋賀県出身の元兵士たちの沖縄戦での足取り示した「沖縄戦経過図」で全体の概要を説明するとともに、部隊の沖縄への移動、嘉数高地・前田高地での戦闘、首里司令部の摩文仁への撤退、組織的な戦闘終結後（兵士たちが置かれた状況）、沖縄方面への特攻作戦について、凄惨な戦争の様子を元兵士の体験談や手記・関係資料を使って紹介した。また、戦争での沖縄住民の被害について語っている元兵士の体験談・手記も紹介した。

【帰郷　家族のもとへ】

沖縄戦では、従軍した兵士の大半が戦死されたことを、兵士の無事な帰郷を待った家族の体験談を使って紹介した。遺骨・遺品すら家族のもとへ帰っていない沖縄戦没

者を象徴する資料として、沖縄県の自然壕から発見されて 68 年ぶりに遺族のもとに帰った七里操さんの万年筆を展示した。

【沖縄県の戦後　慰霊と継承】

戦争が沖縄へもたらし、現在も続いている様々な影響・問題や戦没者の慰霊について、嘉数の丘のふもとに広がる米軍基地写真や平和の礎の写真をバナーとして象徴的に配置し、不発弾や米軍基地、沖縄戦没者の慰霊塔や遺骨収集などを紹介した。

第 24 回企画展示『写真週報に見る戦時下の女性』

会期　令和元年(2019 年)9 月 29 日（日）～12 月 22 日（日）

会場　当館企画展示スペース

趣旨　戦争中、日本政府が国民に対して戦争への機運を高め、戦争へと駆り立てた政府のメディアである写真週報は、政府広報・方針を写真やイラストを多用し、分かりやすく国民に伝えるものであった。そこには男性の勇ましい兵士の姿だけでなく、労働力不足を補うため勤労動員に従事する女学生や銃後の暮らしを守る妻、戦場へ向かう従軍看護婦、地域を挙げて兵士を送り出す国防婦人会など、当時の政府が求めた女性像が写し出されている。

展示では『写真週報』に描かれた女性像と比較する形で、滋賀県での戦時下の女性の半生をモノ資料と体験談を用いて紹介した。

第 24 回企画展示チラシ

展示の様子

概要

【プロローグ　写真週報】

政府広報誌であった『写真週報』が何を国民に伝えたかったかを見学者に感じてもら

うことを意図して、写真週報の表紙写真やイラストを数多く紹介した。

【少女と青春の思い出】

戦時中の国民学校の教育や女学生の勤労動員・女子勤労挺身隊などについて、写真週報の記事（兵士への慰問絵はがきの児童の絵画や国民学校での軍用ウサギの飼育、滋賀県への集団学童疎開、軍需工場への勤労動員など）と、同様の経験をされた方々の当時の体験談・関係資料を比較して紹介することにより、戦時中の少女たちが軍国主義の学校教育によって、当たり前のように戦争への協力を受け入れ、満足な授業も受けられないまま、過酷な労働を強いられていた姿を浮かび上がらせた。

少女と青春の思い出

軍用ウサギの飼育

学徒勤労動員と女子勤労挺身隊

従軍看護婦

【戦時下の女性と職業】

兵士の出征に伴う労働力不足を補うため、新たに様々な職業で働くことを求められた女性の姿を写真週報の記事と体験談を比較する形で紹介した。また、写真週報で白衣の勇者と称えられた従軍看護婦たちの戦地での苛烈な医療活動や凄惨な戦場体験を関係資料とともに紹介した。

【満洲へ渡った女性たち】

満洲国は、写真週報に希望のフロンティアとして様々な形で取り上げられた。そうした宣伝により満洲へ渡った女性たちが終戦後に経験した日本への引揚げ時の苦難についての体験談を紹介した。

満洲へ渡った女性たち

戦時下の婦人会活動

竹槍訓練の様子

戦時下の婦人会資料

【戦時下の結婚・出産・育児】

戦時中の「産めよ、殖やせよ」のスローガンにみられるように、政府が女性たちに将来の兵士・労働者を生む母として、結婚と多産を奨励したことを写真週報で紹介するとともに、新婚の夫の出征や戦死、満足な公的補助のないなかでの出産など、女性が置かれた厳しい現実を体験談などにより紹介した。

【戦時下の婦人会活動】

戦時中、多くの女性たちが参加した戦争協力を目的とする婦人会活動に焦点を当て、写真週報の記事や体験談、国防婦人会・愛国婦人会などの資料から、活動の内容や参加者たちの本音などを紹介した。婦人会として行われた出征兵士の見送りや竹槍訓練の様子をマネキン人形などで再現した。

【エピローグ　『写真週報』に見えないもの】

戦時中、毎日のように行われた出征兵士を見送る姿を撮影した写真が『写真週報』に掲載されていないことに着目し、政府広報誌には載らなかった戦争の本質について来館者に問いかけるとともに、恋人の赤紙を書かなければならなかった佐々木三保子さんの体験談を紹介した。

『戦争がなければ…』では、模型や人形を使って戦争がなかった仮想の戦前の日常の暮らしを表現した。

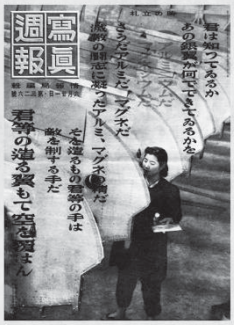
『写真週報』表紙に見る女子の勤労動員・挺身隊

食糧増産のために農地改良工事を行う若い女性たち
『写真週報』第274号表紙（昭和18年6月2日、情報局発行）

職業訓練学校で機械実習を学ぶ若い女性
『写真週報』第293号表紙（昭和18年10月13日、情報局発行）

兵器工場で働く女子挺身隊員
『写真週報』第314号表紙（昭和19年3月22日、情報局発行）

学校に設けられた工場で働く女学校生
『写真週報』第318号表紙（昭和19年4月26日、情報局発行）



飛行機の翼を造る女子挺身隊員
『写真週報』第326号表紙（昭和19年6月21日、情報局発行）

若い女子工員
『写真週報』第333号表紙（昭和19年8月9日、情報局発行）

『写真週報』表紙に見る戦時下の結婚・出産・育児

傷病軍人と婚約者
『写真週報』第188号表紙（昭和16年10月1日、情報局発行）

出征兵士の妻と子供
『写真週報』第166号表紙（昭和16年4月30日、情報局発行）

戦争未亡人と子供
『写真週報』第137号表紙（昭和15年10月9日、内閣情報局発行）

赤ちゃんは未来の兵隊。丈夫に育てるのがお母さんの使命です。
『写真週報』第269号表紙（昭和18年4月28日、情報局発行）

三つ子の兄弟
『写真週報』第337号表紙（昭和19年9月6日、情報局発行）

『写真週報』に掲載された保険や栄養剤の広告
『写真週報』第118号、第141号、第161号、第162号の表紙

展示バナー

第 25 回企画展示『守山空襲－戦場となった滋賀県－』

会期　令和 2 年(2020 年)1 月 8 日（水）～7 月 12 日（日）

会場　当館企画展示スペース

趣旨　古くから中山道の宿場町として栄え、戦時中においても、豊かな水田での食糧生産もあり、都市部ほど食糧事情がひっ迫せず、大阪市からの疎開児童を受け入れるなど、つらい時代にあっても比較的、平和な暮らしが営まれていた守山は、昭和 20 年（1945 年）7 月 30 日午後、紀伊半島沖の空母ハンコックから発進した 4 機の戦闘機によって空襲を受けた。守山空襲では、機銃掃射によって守山駅を発車する列車が攻撃され、乗客や駅周辺の人々が犠牲となった。その数は、確認されているだけで死者 11 名、負傷者 22 名。県下の空襲被害としては、大津市の東洋レーヨンに落とされた模擬原爆に次ぐものであった。企画展示では守山空襲体験者の証言や関係資料により、空襲被害の実態を紹介した。

第 25 回企画展示チラシ　　展示の様子

概要

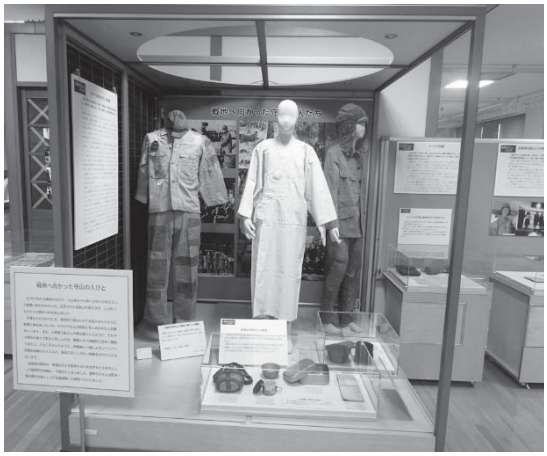
【プロローグ　清流と街道の町『守山』】

中山道の宿場町から地域の商工業の中核都市へと発展した守山の町を、戦前～戦後の写真などを使って紹介した。

【戦時下の守山・戦地へ向かった守山の人びと】

戦時下にあっても比較的に平和な日常生活が営まれていた守山においても、住民は金属供出や勤労動員などを強いられるとともに、多くの方が兵士として戦場へ送られたことを、体験談や関係資料を使って説明した。

各地の戦場写真を配したバナーを背景にマネキンを使って、ビルマの戦場やシベリアでの抑留時に着ていた継ぎはぎだらけの服や、傷病兵が着ていた病衣などを展示することで、兵士たちの過酷な戦地で生活を紹介した。



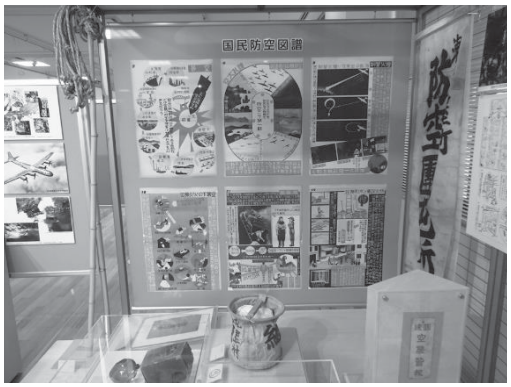
清流と街道の町『守山』　　戦地へ向かった守山の人びと

【日本本土への空襲と空襲に対する備え】

米軍機から発射・投下された爆弾・機銃弾・予告チラシを展示するとともに、空襲被害（都市焼失面積）を琵琶湖のイラストを使って分かりやすく説明した。政府が国民を指導した空襲への対応がいかに欺瞞に満ちたものであったかを説明するため、政府が推奨する対応策が描かれた「国民防空図譜」の写真を配したバナーとともに、当時、実際に使われていた防空・防火用具を立体的に展示した。

【滋賀県への空襲】

滋賀県への空襲を年表と被害位置図で示したバナー（「滋賀県への空襲」）で全体像を説明するとともに、県内で最も多くの方が犠牲になった東洋レーヨン（大津市）への模擬原爆投下と守山空襲に関係が深い大津の航空基地への空襲について体験談を中心に紹介した。



空襲への備え　　昭和 20 年 7 月 30 日　戦場となった守山

【昭和 20 年 7 月 30 日　戦場となった守山】

今回の企画展示では、日米の公文書に米軍側の攻撃記録（空母ハンコックの艦載機『航空機行動報告書』）に 2 行程度の記載（「守山において、全 4 機の戦闘機が機関車を攻撃し、駅に向けて機銃掃射をあびせた。」）が残るだけの守山空襲について、空襲に遭遇された方々の証言をもとに空襲の全貌復元を試みた。体験談を複合的に組み合わせ、時系

列に並べて紹介することで、体験者たちはなぜその時、守山駅周辺にいたのか、空襲時に人々はどんな行動をとったのか、空襲直後の守山の町の状況や人々の行動、負傷者の救護と犠牲者の慰霊など、空襲を受けた 7 月 30 日の守山の町や人々の行動を鮮明に浮かび上がらせることを目指した。

①証言者のプロフィールと行動

空襲に遭遇された体験者の空襲前後の行動や空襲被害状況を地図に落とし込んだバナー「体験証言に見る守山空襲」で全体像を示すとともに、イラストを使ったパネル「今回ご紹介する守山空襲関係者のプロフィール」で、体験者の当時のプロフィールや相互関係を紹介した。

②空襲までの行動

証言者たちが空襲直前に守山駅周辺にいた理由（勤労動員からの帰宅途中や農作業のための一時帰宅など）を、体験証言により紹介した。

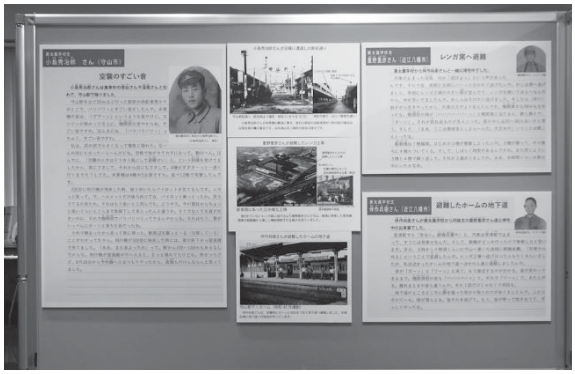
③空襲時

空襲時の避難の様子や米軍艦載機の爆音やパイロットの姿など、緊迫した状況とともに、証言者が空襲に遭遇した場所の現在の写真を紹介し、身近な場所で起きた出来事であることをより深く理解できるものとした。

④空襲を受けた旧山中家住宅

機銃掃射の傷跡が残る旧山中家住宅の部材（天井・土壁、床板など）を立体的に復元展示することにより、米軍機の機銃掃射の威力や当時の生々しい様子を実感できるものとした。

機銃掃射を受けた旧山中家住宅の部材



空襲時の体験談

⑤空襲直後

地域住民による空襲火災の消火活動や、死傷者があふれかえった町や病院の様子など、騒然となった守山の町の様子を紹介した。

⑥空襲の犠牲者

一緒に列車に乗っていた友人を亡くした小島秀次郎さんや兄が空襲で亡くなった苗村千恵子さんの体験談を紹介し、空襲・戦争の悲惨さをより強く感じてもらうものにした。

【エピローグ　守山空襲から 75 年が過ぎて】

今もなお、身元不明の犠牲者がいることや死傷者の実数が不明である一方で、75 年の時が過ぎて空襲現場が大きく変貌し、戦争の記憶が薄れつつあることを紹介した。

空襲日時		空襲の概要・被害状況
昭和20年（1945年）		
B29爆撃機による攻撃（滋賀県上空を通過した）	5月14日 午前	名古屋空襲へ向かうB29爆撃機が彦根市の旭森国民学校（東沼波町・[illegible]）、甲賀市信楽町・寺庄町（[illegible]）を機銃掃射。迎撃した日本軍機が撃墜される。負傷者8名。 守山市・野洲市の湖岸周辺（[illegible]）と大津市上田上地区（[illegible]）に焼夷弾を投下。
	5月17日 23:00頃	B29爆撃機が彦根市田原地区付近（[illegible]）へ焼夷弾を投下。
	6月26日 9:30	B29が彦根市城南国民学校（西今町・[illegible]）へ爆弾を投下。死者8名、負傷者12名。
	7月10日・19日	米軍機が米原を機銃掃射。
原爆投下訓練	7月24日 7:30頃	B29爆撃機が大津市の石山東洋レーヨン滋賀工場（園山・[illegible]）に模擬原爆を投下。死者16名、負傷者104名以上。
空母艦載機による県内の軍事施設・軍需工場・列車などを対象とした空襲	7月24日 8:00頃	空母ハンコック艦載機（ヘルキャット）12機が八日市飛行場（東近江市沖野地区ほか・[illegible]）を攻撃。格納庫や飛行機を破壊。御園町（[illegible]）の市川義信さんなど死者2名以上。米原付近で近江鉄道の電車（16）を攻撃。
	7月25日 6:00頃	空母ベロー・ウッド艦載機（ヘルキャット）が彦根市の軍需工場や列車を攻撃。工場（近江航空工場（馬場・[illegible]）・鐘紡工場（長曽根町・[illegible]）・小野田セメント工場（吉沢町・[illegible]）に爆弾を投下。国鉄の列車（岡町付近・14）や近江鉄道の電車（東沼波町付近・15）に機銃掃射。死者6名、負傷者35名。 八日市飛行場（[illegible]）を攻撃し、飛行機を破壊。日本軍機と空中戦。日本軍2機と米軍2機が撃墜。2名死亡。
	7月25日 7:00頃	空母ハンコック艦載機（ヘルキャット）12機が八日市飛行場（[illegible]）を空襲。格納庫・飛行機を爆破。東近江市建部地区（[illegible]）でトラックが爆撃に巻き込まれ、教員1名が死亡。
	7月25日 12:00頃	空母ハンコック艦載機（コルセア）12機が八日市飛行場（[illegible]）を空襲。飛行機・格納庫を破壊。東近江市小脇町（[illegible]）の田中さん宅に爆弾が直撃し、夫婦が死亡。
	7月28日 7:00頃	空母ベロー・ウッド艦載機（ヘルキャット）が長浜市鐘紡長浜工場（鐘紡町・[illegible]）を爆撃。死者1名、負傷者1名。彦根市で3ヶ所の軍需工場（近江航空工場（[illegible]）・鐘紡工場（[illegible]）など）を爆撃。米原駅機関車庫（米原・19）を爆撃。機関士1名が死亡。彦根～米原間（20）の鉄道を機銃掃射。八日市飛行場（[illegible]）を空襲。今津上空で日本軍機4機を撃墜。死者7名。
	7月28日 12:00頃	空母ベロー・ウッドの艦載機（ヘルキャット）が大津市の滋賀海軍航空隊（際川地区・[illegible]）を空襲。彦根駅北方の列車（20）を機銃掃射。彦根市湖岸の工場を爆撃。
	7月28日 12:00頃	空母ハンコック艦載機（コルセア）7機が八日市飛行場（[illegible]）を空襲。付近の機関車を機銃掃射。
	7月30日 6:00～	空母ベロー・ウッド艦載機（ヘルキャット）が米原駅操車場（[illegible]）の機関車2両を爆撃。 米原付近（[illegible]）と八日市付近（[illegible]）の列車を機銃掃射。彦根市高宮などの工場（[illegible]）を爆撃。八日市飛行場南東の工場（[illegible]）を爆撃。東近江市石谷町（[illegible]）の児童2名（山田久司さん・忠男さん）が機銃掃射を受け死亡。 東近江市の日清紡能登川工場（林町・[illegible]）が爆撃を受けて炎上。死者1名以上。近江八幡市の安土駅（安土町上豊浦・[illegible]）で列車が攻撃を受け、機関車大破。負傷者1名。南五個荘国民学校（五個荘地区・[illegible]）が爆撃・機銃掃射を受けて損壊。
	7月30日 12:00頃	空母ハンコック艦載機（コルセア4機）が大津市の大津少年飛行兵学校（御陵町ほか・[illegible]）・滋賀海軍航空隊（唐崎地区・[illegible]）を爆撃・機銃掃射。死者1名。
	7月30日 15:30頃	空母ハンコック艦載機（ヘルキャット4機・コルセア3機）が大津海軍航空隊（[illegible]）・滋賀海軍航空隊（[illegible]）を爆撃。負傷者2名。草津市下物町（[illegible]）で機銃掃射。 4機の戦闘機が守山市の守山駅周辺・列車（梅田町・[illegible]）を機銃掃射。死者11名以上、負傷者22名。近江八幡市の近江八幡駅付近（日吉野町・[illegible]）で機関車を機銃掃射。付近で農作業をしていた北川千枝さんと機関士1名が死亡。
	7月30日	米軍機が彦根市の軍需工場（近江航空工場（[illegible]）・外町（[illegible]））・鐘紡工場（[illegible]）・小野田セメント工場（[illegible]）や花田国民学校（甘呂町・[illegible]）を機銃掃射。
詳細不明	7月31日 昼頃 7月31日 8月12日 8月13日	米軍機が彦根市南河瀬地区（[illegible]）・西今町（[illegible]）、豊郷町安食地区（[illegible]）の水田に爆弾を投下。 米軍機が近江八幡市の日野川鉄橋（37）で貨物列車を機銃掃射。 米軍機が米原駅（19）を機銃掃射。 米軍機が天虎飛行研究所甚蔵分所（野洲市甚蔵[illegible]）の水上飛行機を機銃掃射。琵琶湖上空で日本軍機と空中戦。日本軍機4機が撃墜され、4名死亡。周辺住民2名が流れ弾により死亡。

※備考：　年表の番号は「滋賀県空襲被害地図」に対応。

展示バナー「滋賀県への空襲」